

真駒内御料札幌線の道路陥没について

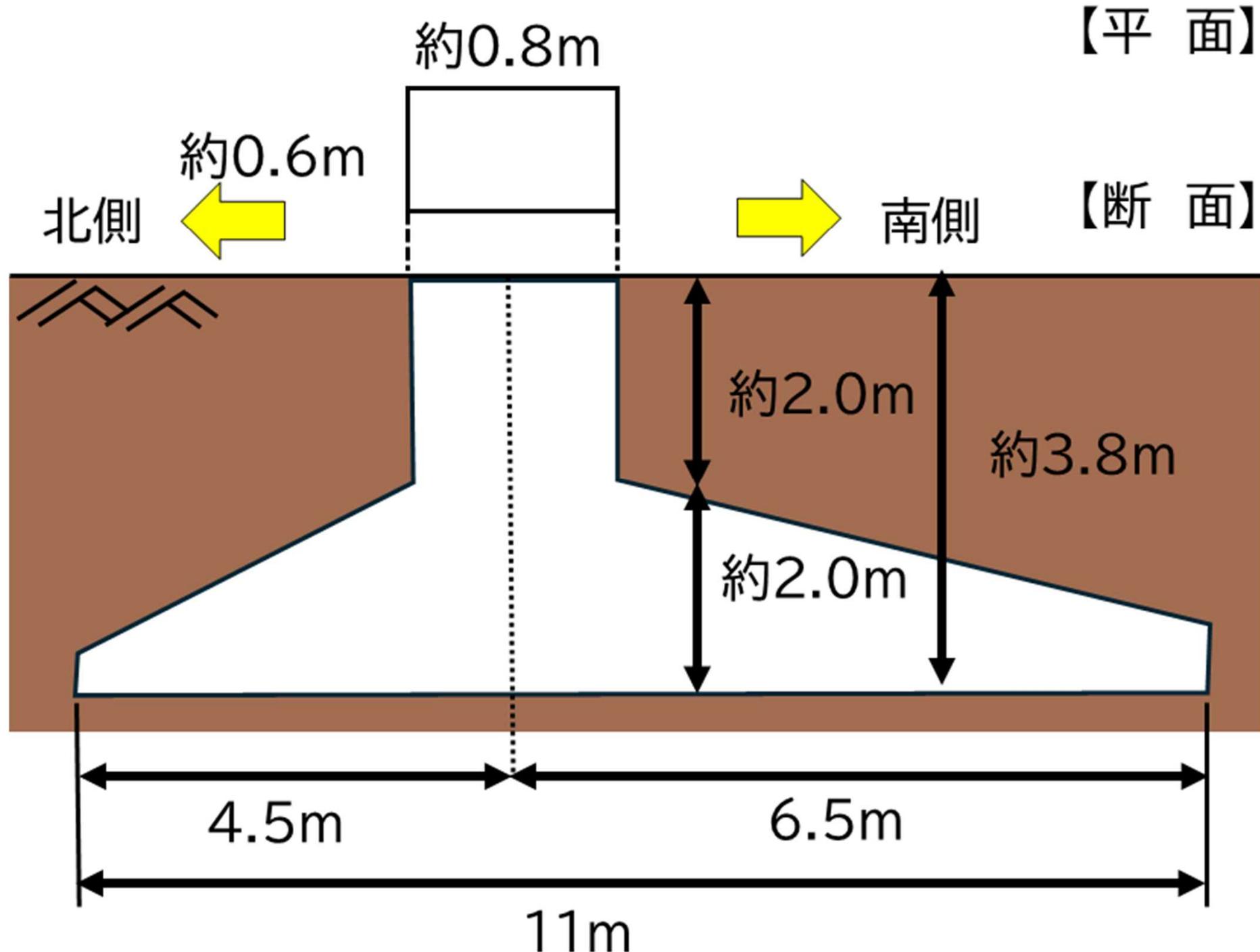
1. 道路の掘削調査の結果について

- ・北海道開発局および寒地土木研究所、北海道から派遣されている職員と掘削の状況を確認。
- ・空洞部分は掘削により、全て確認しており、その中で構造物の破損や水道の漏水による陥没ではないことを確認。

○ 掘削状況



○ 空洞イメージ



2. 陥没の原因について

- ・道路陥没箇所において実施した掘削調査の範囲内には、近傍の水管からの漏水は無いことを確認したほか、下水道等の構造物は確認されておらず、土砂の流出先は確認されていない。
- ・また、目視で確認したところ厚別川への土砂流出の痕跡も確認できないことから、現時点では原因については不明である。

3. 陥没箇所の仮復旧について

- ・これ以上の掘削は地盤の不安定化を招く危険性がある。
- ・掘削断面が露出された状態だと、掘削断面の崩壊や、融雪水等の流入による掘削底面の変状等の二次被害を招く可能性がある。
- ・そのため、掘削範囲を埋め戻し、舗装を仮復旧することで外部からの水の流入を防ぐ必要がある。
- ・現場の動画を撮影するなどして、復旧前の状況を記録したうえで復旧を始めて良いのではないかとの助言もあった。
- ・原因の特定には時間を要すること、短期間では同様の陥没が発生する可能性は低いこと、また、長期間の通行止めによる市民への影響も踏まえて、道路の仮復旧を行った。

○仮復旧状況



4.今後の調査について

- ・仮復旧後の監視として、1日2回(午前・午後)の目視点検を実施する。
- ・27日に実施した空洞調査の結果、陥没の危険性のある空洞は確認されなかった。
- ・経過観察を行うために空洞調査は本日も実施しており、3月には2週間に1回の頻度で調査を実施する予定。調査区間は国道36号～真栄橋の延長約2.0km。
- ・原因の特定に関する具体的な調査については、早急に委員会を立ち上げ、関係機関及び有識者に技術的助言を求めながら実施する。

○空洞調査

調査状況(2/27)



調査状況(2/27)



○空洞調査(調査範囲)

